

文理科学科通信

京都府立福知山高等学校

輝く眼差し、あふれる熱意

平成21年度文理科学科40名入学

4月9日、さわやかに晴れ渡った青空の下、平成21年度福知山高等学校入学式が挙行され、文理科学科に入学生40名を迎えました。入学式では、坂根文伸校長が式辞の中で、「個を活か

し、公に生きる」生徒としての成長を期待するとの激励の言葉を述べられました。入学生40



文理科学科3期生(平成21年度入学)出身中学校別一覧(40名)

成和中	桃映中	南陵中	日新中	六人部中	綾部中	青葉中	東江中
4	6	9	6	5	8	1	1

名の姿には、新たな学校生活に対する、不安の中にも大きな期待とあふれる熱意が感じられ、新しい学校生活の始まりを飾るすばらしい入学式となりました。入学式後のホームルームでは、担任の谷口日出夫先生(英語科担当)より、歓迎の言葉がありました。さらに、御出席いただいた、保護者の皆様より新しい学校生活の門出を祝福していただき、入学生40名の眼差しは一層の輝きを見せました。

また、文理科学科の特色ある学習「みらい学」が、早速、11日の特別講義から開始されることが伝えられると、これから始まる研究活動に胸を大きくふくらませていました。

開講 みらい学

農学の研究活動を開始

4月11日、第1回目土曜講座を利用して、今年度の「みらい学」を開講しました。

初回の特別講義として、「大学における教育と研究―農学の視点から」と題して、神戸大学大学院農学研究科教授 土佐 幸雄 氏に御講義いただきました。講義の中で、科学技術の新発見や新発明には観察力や想像力、それらの基礎を培う基礎学力の充実が重要であること、一見独立して見える事象の統一性を発見したり、それを見出したり

することが科学であるということをお話しいただきました。

続いて、国際学会においても、ポスターによる発表が主流で、講演のように、限られた時間での発表・質疑ではなく、じっくりと納得できるまで、発表者とディスカッションすることに よって、研究がより深まるということも学びました。

また、高校生の若い頭脳や感性を大いに磨くことを期待するとの激励を受けました。

提示していただいた4つの研究テーマ

- 農薬問題
- 食料自給問題
- 遺伝子組換え

作物の問題

地球温暖化と

バイオエタノールの問題

より一つのテーマをグループで選択し、研究成果をポスター形式でまとめ、5月9日の研究交流会で成果の交流を予定しています。

(日新中学校出身)

驚きと納得の連続だった。正直、僕は「農学なんか・・・」と思っていたけど、こんなに深く、幅広い分野だったのかと感心した。そして、なにより農学が僕たちの生活にとっても近い存在なのだとわかった。作家と科学者は、ストーリー(仮説)を作るうえで、同じで、それを証明につなげるのが科学者と言っておられた。これにも、なるほどと共感できた。

(青葉中学校出身)

外国の若い留学生が自分の国の危機を救うために日本へ来て、多くの人のためにがんばって勉強しているということもすごいことだと思いました。最近ではテレビとかでも地球温暖化が多くあり、しかもなかなか完璧な解決策が見つからないという現状も知りました。

